

*ピースウィンズ・ショップ から *

PWJ オリジナルカレンダー
好評発売中です！

2021年もすぐそこまで！毎年ご好評を頂いている PWJ のオリジナルカレンダー「Smiles of the World」（世界の笑顔）を好評発売中です。PWJ が支援活動を行っている世界の事業地から笑い声が聞こえてきそうな笑顔の写真が届きました。多くは PWJ の駐在スタッフが撮影した写真で、普段から一緒にいる私たちだからこそ見ることのできる世界の笑顔が元気を与えてくれます。ご自宅や職場、ギフトに是非ご利用ください。



ご注文は、<https://pwshop.ocnk.net/>

TEL03-5738-8021
FAX03-3465-2112 からどうぞ

オンラインショップでご注文いただけます。
皆様のご来店をスタッフ一同お待ちしております。
※ピースウィンズ・ショップの収益は PWJ の支援活動に活用されます。



PWJ の活動にご協力ください

※認定 NPO 法人の PWJ に対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641
加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（国内の支援事業の場合はその事業名）を明記してください。
※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいたしかねる場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

【銀行口座】

●PWJ の活動全般へのご寄付
銀行名：三井住友銀行 青山支店
口座番号：普通 1671932
口座名義：特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン広報口

大切な方へのギフトは ピースウィンズ・ショップで！

年末年始はお歳暮、お年賀などギフトを贈る機会が多い季節ですね。ピースウィンズ・ショップでは、作り手も受け取った方も笑顔で元気になるフェアトレードギフトを各種、そろえてあります。お年賀ギフトは毎年好評頂いている干支シリーズ（2021年は「丑」ラベル）、金色の「寿」がまぶしい和風ラベルの2種類をご用意しております。バレンタインギフトでは、コーヒーとチョコレートのセットをご用意しておりますので、是非オンラインショップでお求めください。



ご挨拶（2020年を終えるにあたって）

今年の流行語大賞に「3密」が選ばれたように、2020年は新型コロナで始まり新型コロナで終わるに感じます。PWJ の活動も例外ではなく、海外事業では駐在員が帰国を余儀なくされるなど大きな影響が出ました。また、国内事業もコロナ関連の支援が多くを占めました。

しかし悪いことばかりではありませんでした。テレワークや住環境の変化、IT化など変化が起きにくい日本の社会に風穴を開けたことも事実です。2021年も PWJ は引き続き、支援が必要な人びとに支援を続けます。皆さまの温かいご支援、どうぞよろしくお願ひいたします。



必要な人々に
必要な支援を



各戸訪問で、聞き取りするスタッフ。この地域には夫や息子など家族の若い男性を戦闘で亡くしている家庭が多い。



紛争で疲弊した アフガニスタンに、 さらなるコロナの脅威

紛争が続くアフガニスタン。ソ連侵攻のときから数えると実に40年もの長い期間、国内外の勢力が激しい戦いを繰り広げ、そのたびに市井の人々が犠牲になってきました。2020年に入り、歴史上初めて政府と反政府勢力タリバンが和平協議に乗り出しましたが、人々の切実な平和への思いとは裏腹に、停戦の道筋はまだ見えています。紛争状態が続く国の中では医療や教育といった最も基礎的なインフラでさえ整備が進まず、特に農村部においては今なお、圧倒的に不足しています。

そのような慢性的な人道危機ともいえる状況の中でさらなる脅威、新型コロナウイルスが発生し、感染拡大とそれに伴うロックダウンの措置や経済活動の縮小により、多くの日雇い労働者が職を失い、さらに国境の閉鎖も影響して物流が制限され、食糧価格が高騰しました。

これまで機能していた社会的な相互扶助の仕組みも弱まり、飢餓や、生活苦からの自死さえ聞かれ始めました。

この事態に対応するためピースウィンズ・ジャパンは、同国東部ナンガルハール県で、最も困窮している世帯に対し、喫緊の課題である食糧確保のため、小麦、米、食用油、豆、塩、砂糖などが購入できるよう、支援を実施しています。パキスタンとの国境に近い4つの対象郡は、人や物の流通の要所であり、それゆえにあらゆる武装勢力が拠点を置く国内屈指の危険地としても知られ、国際支援や政府の公共サービスなどが最も届きづらい場所です。

治安が非常に不安定な場所での支援実施にあたっては、とりわけその土地と文化に精通し、地域からの信頼が厚い現地パートナーの存在が不可欠です。PWJ は現在、ナンガルハール県で様々な地域活動の実績をもつ現地 NGO とパートナーシップを結び、本事業を進めています。多くのニーズを抱える地域で「最も困窮した」家族を判断するのは簡単なことではありません。しかし、国連、他の NGO、長老や地元の青年グループ、地方行政の役人などの関係者と協議を重ね、協力を得ながら、対象となりうるすべての家庭を実際に訪問し、丁寧な調査を行いました。アフガニスタンの人々がこの危機を何とか乗り切る一助となるべく、引き続き努力してまいります。



男の子と握手が訪問したお宅から出でた



発行：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
本部事務所：〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F ☎0847-89-0885(代表)
東京事務所：〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F ☎03-5738-8020 フリーダイヤル ☎0120-252-176
佐賀事務所：〒840-0831 佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6F ☎0952-20-1607
ホームページ：<https://peace-winds.org/> Eメールアドレス：meet@peace-winds.org

発行人／大西健永 編集責任者／町浩一郎 レイアウト／菅野加代子

ケニア事業紹介

バッタ被害とPWJの活動



サバクトビバッタは、農作物や牧草、植物などを餌とする短い角があるイナゴです。乾燥・半乾燥条件を好み、繁殖生息地を求めて風に乗り長距離を群れで移動します。

ケニア北西部トゥルカナ郡では、2020年2月1日に東部で最初に飛来が報告されて以降、全土に広がり、452,500ヘクタールの牧草地と9,449ヘクタールの農地が深刻な被害を受け、約82,000世帯の生活に影響を与えました。

PWJは、6月から同郡政府と連携し、地域の人たちから成る対策チームを結成し、バッタ発生状況の監視・薬剤散布・報告活動に関する研修を行いました。現在、同チームによる住民への啓発活動や監視活動が継続されていて、住民からの通報を求めるラジオ放送やホットラインの設置なども行いました。幸いにも、PWJが活動を開始して以降はバッタの発生が確認されていませんが、最新の情報では2020年12月中旬にはバッタが同郡に侵入することが見込まれており、対策チームの活躍が期待されています。

南スーダン事業紹介

東エクアトリア州マグウェイ郡での害虫被害支援

PWJは、南スーダンでサバクトビバッタによる被害を受けた農家とコミュニティに対して農業支援を行っています。

ウガンダとの国境沿いにあるマグウェイ郡は、農作物の60%が害虫被害を受け、なおかつ避難していたウガンダから戻ってきた帰還民の数が大変多い地域です。このバッタは一日に自分の体重と同じ量の農作物を食べ、排泄物は食べ残した食物を腐らせ、農業に甚大な被害を与えます。帰還して間もなく害虫被害を受け、必要最低限な農具すら持たない人びとも多く、もともと少なかった収穫量が害虫被害で更に減ってしまいました。

これを受け、PWJは被災農家の互助グループを形成し、種子や農具を配布し、対象コミュニティに対して食料の安全保障、害虫の知識や収量向上の技術の普及、性的およびジェンダーに基づく暴力（SGBV）研修などを通じて、被災地を支援しています。PWJは今後も、南スーダンで支援を必要とする人びとのため、活動を続けてまいります。



種まきの様子

ミャンマー事業紹介

国内避難民キャンプで衛生環境を改善!!

2020年3月から8月にかけて、UNICEF(ユニセフ)との共同事業として、ミャンマー南東部のカレン州にあるミヤインジンゲー国内避難民キャンプにおいて、住民が衛生的な環境で生活できるよう配水施設の建設や共同トイレの整備などの支援を実施しました。このキャンプは、長年にわたるミャンマー国軍と少数民族武装勢力間、あるいは武装勢力同士の紛争混亂から地域住民が逃れるために設けられましたが、未だに住民の帰還の目途はたっていません。

キャンプ内では貯水槽や配水管が整備されていなかったため、いつでもきれいな水で手洗いやうがいができるように配水施設を建設し、排泄物などによる病気の蔓延を防ぐために共同トイレを整備することで、キャンプ内で生活する人々が健康で安全に暮らせる環境を整えました。事業実施中は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動を中断し、関係者の健康管理などで大変でしたが、住民からは感謝しているとの声が聞かれました。これからもミャンマーでの活動を継続してまいりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

なお、PWJではYahoo!ネット募金でも活動を紹介しています。

詳しくはこちら
(<https://donation.yahoo.co.jp/detail/925042>)



水を汲んで運ぶ女性たち
同所水槽から運ぶ（1人は竹筒）

\イラクを例に考えよう/
どうして支援が必要なの?
どんな支援のかたちがあるの?

行崩れかけた家も。複数の家族が破損した家居に同居している世帯などで即席の修理を行います。

1980年代以降、戦争や内乱、過激派組織による攻撃を受けて、2020年11月現在も、約140万人がイラク国内で避難生活を送っています。一方で、もともと住んでいた地域や町での戦闘が終わり、避難先から地元に帰ろうとする帰還民も増えてきています。

しかし、生活を再建しようとする帰還民の前に立ちはかかるのは、爆撃等により破壊された家屋です。爆撃によって屋根が吹き飛び、一部は崩れかけ、壁に穴が開き、家の一部分がなくなってしまっている家屋もあります。命だけは助かろうと身一つで家族と逃げて、避難生活の中で仕事を得ることが難しかった多くの人びとにとて、自分たちで修復費用を出して家屋を修繕することはとても難しいのが現状です。

PWJは、現地政府や国連機関などと調整し、家屋の修復支援を実施しています。イラク国内に事務所を持ち、エンジニア等現地の技術者を雇用し、できる限りイラク国内の資機材を利用することで、活動資金がイラクの経済活動に貢献するような工夫も行っています。また、必要な支援をより効果的に実施するために、支援の対象者である帰還民の声をよく聞くことも大切にしています。



修繕工事の様子



PWJと企業の社会課題解決に向けた取り組みについて

たくさんの企業・団体からご支援を頂いています

新型コロナウイルス緊急支援活動へのご寄付を中心に、2020年は200社を超える企業・団体から支援のお申し出を頂きました。日々移り変わる感染状況やニーズを見極めた迅速な支援が求められる医療物資支援においては、PWJに寄付金を預けてくださった多くの企業・団体に支えられ、新型コロナウイルス感染症に最前線で対応する医療現場をはじめ、行政からの支援が届きにくい小規模なクリニックや福祉施設にも必要な物資を届けることが出来ました。



企業・団体からのご支援の方法は、寄付金のみならず様々です。QRコード決済アプリ「PayPay」(PayPay株式会社)やアパレルブランド「EDWIN」(株式会社エドワイン)、「JEANASIS」(株式会社アダストリア)などでの寄付付き商品の販売は、私たちの活動を広く知りていただく機会になりました。また、株式会社小松製作所では、協力企業と連携してガウン、フェイスシールドの開発が行われ、ロックユニット「B'z」の支援で調達したN95マスクとともに、都内医療機関に配布しています。全日本空輸株式会社(ANA)ではマイル寄付を募集、医療現場の負担軽減に直結するものとして紫外線照射ロボットを東京・大阪の医療機関に寄贈しました。このようなプロジェクト型の支援では、PWJが医療の観点からのアドバイスや、寄贈物品・寄贈先の選定を行なうなど、企業と二人三脚で取り組んでいます。

PWJはこれからも、企業・団体の皆様とともに、社会課題の解決に取り組んでいきます。